

IDNo.	号数	年月	著者	題目	ページ	備考
673	286・287	H09. 10	川越重昌	諸外国での(15世紀～18世紀末迄の)硝石製法私考(2)	16～39	
674	288	H09. 11	川越重昌	諸外国(スペインからアフリカへ)での硝石製法私考(3)	01～15	
675	289	H10. 2	川越重昌	諸外国(アフリカから中近東の国々へ)での硝石製法私考(4)	01～19	
676	別冊	H10. 2	所 庄吉	再考 葡人の初来日と鉄砲伝来草稿		未製本
677	別冊	H10. 2	北村陽子	ペリー砲の点火器について		未製本
678	別冊	H10. 2	所 庄吉	安齋さんとの交友	01～06	訃報 未製本
679	290	H10. 3	川越重昌	諸外国での硝石製法私考(5)	01～09	
680	別冊	H10. 3	所 庄吉	火縄銃身の鍛接について一疑問の解明一(追加)		未製本
681	291・292	H10. 4	北村陽子	ペリーの砲声	01～20	
682	291・292	H10. 4	管野利雄	慶長・元和年間における伊達氏の鉄砲戦について	21～29	
683	293	H10. 5	霜 礼次郎	幕末海軍操練所の創設と澤太郎左衛門の関与について	01～29	
684	293	H10. 5	川越重昌	諸外国での硝石製法私考(6)	30～42	
685	294	H10. 6	霜 礼次郎	幕末留學生が訪れたリエージュについて(その1)一製鉄史・製銃史的視点より一	01～26	
686	294	H10. 6	霜 礼次郎	幕末留學生が訪れたリエージュについて(その2)一欧州における銃鍛造法と工作機械の変遷について一	26～55	
687	294	H10. 6	川越重昌	諸外国での硝石製法私考(7)	56～68	
688	295	H10. 7	霜 礼次郎	「西洋鉄砲鑄造編」と欧州の火砲の発達過程について(その1)	01～56	
689	296	H10. 9	梶 輝行	文化4年の日蘭軍事交流の諸相	01～26	
691	296	H10. 9	所 庄吉	「文化4年砲術について阿蘭陀カピタン江御尋之1件」	27～37	
692	297	H10. 10	霜 礼次郎	「西洋鉄砲鑄造編」と欧州の火砲の発達過程について(その2)	01～76	
693	298	H10. 11	岩淵誠一	幕藩営工場での砲身中ぐり盤の製作及び稼働状況(その1)	01～63	
694	299・300	H11. 2	島津兼治	マレー半島の火縄銃について一和銃の原形を探る一	01～19	
695	299・300	H11. 2	所 庄吉	ゴールケの「火器史」	20～48	
696	301	H11. 3	峯田元治	釜屋、永瀬家所蔵の大筒(増田安治郎作)	01～15	
697	301	H11. 3	霜 礼次郎	我が国鑄造法に与えたヒュグューニンの影響(その1)	16～47	
698	302	H11. 4	北村陽子	ウィリアム・アダムスと日本橋の鉄砲師	01～15	
699	303	H11. 5	霜 礼次郎	我が国鑄造法に与えたヒュグューニンの影響(その2)	01～24	
700	304	H11. 6	粕谷利一	「鹽本記」の謎と近世の製硝技術	01～34	
701	305	H11. 7	荻原博志	十挺揃車臺早打仕懸銃について	01～21	
702	306	H11. 9	岩淵誠一	幕藩営工場での砲身中ぐり盤の製作及び稼働状況(その2)①	01～32	
703	307	H11. 10	安田 修	「尾張藩での鉄砲鍛冶・台師・金具師の作業状況」一天明三年より文化九年までの二十九年間一	01～	
704	308	H11. 11	霜 礼次郎	幕末の反射炉による鑄造砲の問題点とその技術的対応について(その1)	01～13	
705	309	H11. 12	寺西英之	砲熷技術国産化と純鉄製造	01～19	